



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	生態系サービスから見る「負の存在化」した野生生物の資源化プロセス：北海道道東のエゾシカを事例に
Author(s)	福山, 貴史; 敷田, 麻実
Relation	第 20 回「野生生物と社会」学会 犬山大会, 2014年11月2日, 国際観光センター, 犬山市.
Issue Date	2014-11-02
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/58245
Type	conference presentation
File Information	ukuyama_abstract.pdf, 要旨



【テーマセッション名】

「生物文化多様性による野生生物と社会の関係分析の提案：バイラテラルアプローチ」

【企画者】

敷田麻実(北海道大学)

【趣旨】

従来、野生生物は供給サービスを生み出す「資源」であった。そして食料や毛皮をはじめとする多様な製品を製造するために野生生物を消費してきた。しかし、農耕や家畜生産などが一般化し、野生生物を資源として直接消費対象としない社会に移行すると、野生生物は保全や管理する対象に移行した。それと同時に、生態系サービスの「供給サービス」から「文化的サービス」の消費が生み出された。また保全や管理の対象となった野生生物との関係は、直接消費を介在しないので、それまでと異なる関係が生じた。

こうした文化的サービスの存在がありながら、野生生物の管理に関しては、生態学に基づく科学的な議論や研究によって根拠づけられた政策が主流である。また、地域や市民活動も含めた関係者が管理に関わっているが、獣害対策など直接的な管理に関心が集まっている。野生生物と関わる文化面の研究は、民俗学や環境社会学でも議論されてきた。しかし、文化的サービスを前提とした管理は十分考察されてこなかった。

そこでこのセッションでは、野生生物と私たちの社会の関わりを、文化的サービスの利用の視点で再度分析し、生態学的なアプローチだけではなく、文化的なアプローチも取り入れた、野生生物保護管理のための「生物文化多様性アプローチ」を提案し、議論したい。

【講演者と講演タイトル】

「趣旨説明」

敷田麻実(北海道大学)

「生物文化多様性アプローチによる野生生物管理のフレームワーク」

敷田麻実(北海道大学)

「生態系サービスからみる「負の存在化」した野生生物の資源化プロセス」

福山貴史(北海道大学(大学院))

「現代文化における生物多様性の活用：ポケモンと生物多様性に関する分析」

宮下健太郎(北海道大学(大学院))

【コメンテーター】

・湯本貴和（京都大学）

・新広昭（石川県）

生態系サービスからみる「負の存在化」した野生生物の資源化プロセス

獣害対策などが深刻化する現代社会では、野生生物は駆除対象にされる傾向が見られる。特に農林業被害や生態系破壊のような被害状況は、メディアに公表されるケースも多い。こうした生態系バランスの喪失は、生態系サービスのうちの「調整サービス」の

問題だと考えられる。吉田（2013）は、鳥獣被害などのマイナスの影響を人間に与える生態系サービスを「負の生態系サービス」だと主張しているが、「負の存在化」した野生生物と社会の関係の再構築が必要である。また、正の存在として再認識するには、野生生物の価値を資源として再認識する必要性がある。

そこで本発表では、北海道道東地区のエゾシカの資源化を事例に、負の存在化したエゾシカが、地域関係者の文化的・科学的な 2 つの価値付け方法によって、その資源価値が向上したプロセスを分析した。このプロセスは、さらにアプローチの違い（ブランディング・マーケティング）で 2 つに分類可能であり、以上の 4 つの要素を生態系サービスとの関連で考察し、資源化プロセスにおける文化的サービスの意味と効果について議論する。

【参考文献】 吉田謙太郎（2013）『生物文化多様性と生態系サービスの経済学』，昭和堂，京都市，270p.